

## は し が き

昭和58年11月に中教審教育内容小委員会の審議経過報告が出されましたが、その中に「自己教育力の育成」がうたわれています。

しかし、これを子どもたちに求める前に、まず教師自身が身につけなければならないと思います。現在の学校教育は、校内暴力をはじめとして多くの課題に直面しています。これらの解決のために、ますます教職員の研修が重要となってきます。すなわち、教師自身の「自己教育力」が問われていると言ってもよいと思います。

研修や教育研究を行うには、広く情報・資料を集め、それらを有効に活用するのでなければ、効率的な研修・研究とは言えないでしょう。ゼロからの出発でなく、先行研究、先行実践を足がかりとして、その積み上げをはかることが必要だと思います。

当教育センターでは、教育資料室を設けて資料の収集を行い、県内教職員の研修、研究のために資料の提供を行ってきました。情報時代といわれるように、次々と新しい情報が生み出されていますが、それらの中から必要な情報を有効に活用していくことが、今後ますます必要になると思われます。

多くの学校や教育研究機関等で、熱心に研修や研究が行われており、それが、研究紀要などの形で発表されています。その量は相当な数にのぼると思われませんが、1つ1つは部数も少なく、入手が難しいためなかなか利用しにくい状態にあります。

これらの先行研究、先行実践が、資料として有効に活用され、効率的な研修や研究が行われるよう、学校における教育研究活動の現状と、教職員が教育研究に利用する資料等について、調査をもとに考察を行ったのが、この研究報告第70号です。

この、資料の有効な活用の問題は、個人や学校だけではうまくいかない面があり、多くの人たちの協力が必要となります。この報告書を通して、そのためにはどうあったらよいかを、みんなで考えていきたいと思っています。これからの資料利用の面で、なんらかのお役に立てば幸いです。

まだ不十分な面が多々あると思いますが、ご一読いただき、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

この研究は、教育資料室の前担当者、小林 巖、鍋谷総子、両指導主事の実施した調査をもとに、それを集計し考察を加えたものであることを付記いたします。

なお、調査にご協力いただいた学校および先生方に厚くお礼申し上げます。

昭和59年3月

新潟県立教育センター所長 陶 山 正 和